

Program Notes

モーツァルト:モテット「踊れ、喜べ、幸いなる魂よ」
Exsultate, Jubilate K.165

モテットは、声楽曲のジャンルのひとつで、ミサ曲以外の宗教曲を指します。現在では、通常リリック・ソプラノの主要なレパートリーとなっており、その華やかな曲調からコロラトゥーラの技術が要求されます。

フォーレ:ピエ・イエズ(レクイエム Op.48 第4曲)
Pie Jesu

「ピエ・イエズ」とは、「優しきイエズよ」という呼びかけです。三大レクイエムの一つに数えられるフォーレのレクイエムですが、モーツァルト、ヴェルディのそれと異なり、死の恐怖を表していないと言われています。フォーレは「死は苦しみというより、むしろ永遠の至福の喜びに満ちた開放感に他ならない」と考えていたからです。

シューマン=リスト:献呈 Widmung

シューマンが結婚式の前夜に妻となるクララに贈った26曲の歌曲集「ミルテの花」Op.25 (1840)の第1曲です。本日はリストがピアノ独奏用に編曲した(1848)華麗で優雅な作品を、クララ・シューマンの6つの歌曲への導入として演奏します。

クララ・シューマン:6つの歌曲 Sechs Lieder Op.13 1840~1843

クララは、誕生日などにロベルトに自作の歌曲をプレゼントしていました。この6曲は、ロベルトが贈られた歌曲から選んで歌曲集にしたものです。 金持亜実記。

シューベルト 野ばら Heidenröslein D.257 1815

ゲーテが1771年にストラスブールに滞在していた時に書かれたもので、Friederike Brionという女性に恋をし、彼女に贈られたもの。「男の子が野に咲く薔薇を見つけました」といったメタファー(暗喩)を用いた文で始まります。

シューベルト 鱒 Die Forelle D.550 1817

18世紀の詩人シューバルトの歌詞にシューベルトが曲を付けたものの、歌詞はざる賢い漁師が術策を用いて魚を釣り上げるさまを歌ったものですが、「男はこのようなして女をたぶらかすものだから、若いお嬢さんは気をつけなさい」という意味の寓意となっています。シューベルトは原作の第4節を省略して3節からなる有節歌曲としましたが、本日は第4節も対訳に載せておきました。

シューベルト 糸を紡ぐグレートヒエン

Gretchen am Spinnrade D.118 1814

ゲーテの戯曲「ファウスト」のファウストは、知識をきわめ尽くし、全人生を体験したいと望み、悪魔と契約を結んであらゆる享楽を手に入れ、素朴で敬虔な少女グレートヒエンに恋をします。この曲は恋するグレートヒエンの興奮や動揺を描写した、シューベルトにとって初めてのゲーテ歌曲で、この曲を以てドイツリートが誕生したと言われています。

メンデルスゾーン:歌の翼に Auf Flügeln des Gesanges 1836

「歌の翼に」は、ハインリヒ・ハイネが1827年に発表した「歌の本」にある詩に、フェリックス・メンデルスゾーンが作曲した歌曲(「6つの歌」Op.34の2曲目)で、南国イタリアを遠く離れたインドへの憧れが歌われます。

ファニー・メンデルスゾーン:南へ 5 Lieder Op.10 第1曲 1841

ファニーは、かなり多くの歌曲作品を作曲していますが、作品が世に出ることはほとんどありませんでした。そんな中、この「南へ」を含む5つの歌曲Op.10は、ファニーの没後に弟のフェリックスによって編纂、出版されました。 金持亜実記。

マスカーニ:間奏曲 Intermezzo Cavalleria Rusticana

マスカーニの出世作であり、ヴェリズモ(リアリズム文芸運動)オペラの端緒をなす歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」は、激烈な筋の合間に、優美なメロディーの間奏曲がユニゾンで流れます。アヴェ・マリアの歌詞で歌われることもあります。本日はオペラへの導入として、ピアノで演奏します。

ビゼー:何を恐れることがありましよう

Je dis que rien ne m'épouvante

ビゼーの「カルメン」は、魔性の女カルメンがあまりに強烈なので、ビゼーは主人公ホセの許嫁として、可憐なミカエラという役を設定しました。兵営に帰り損ねて山賊達の山の中について来てしまったホセに、ホセの母親が病気であることを告げに来たミカエラが自分を励まして「恐れることはない」と歌います。

プッチーニ:私のお父様 O mio babbino caro

プッチーニ晩年の1幕ものオペラ3部作の最終作品で、主人公ジャンニ・スキッキが、大富豪の遺産騒動と、若い男女の恋を解決するさまを描いた喜劇です。娘のラウレッタが父親に、結婚させてと歌いますが、歌詞はヴェッキオ橋からアルノ川に身を投げるとおだやかに、しかし曲は父親への信頼と甘えを示したかわいいアリアで、当時のフィレンツェの豊かな生活をほうふつとさせます。

資料は、特記のないものについてはWikipediaを参考にしています。

Profiles

金持 亜実(ソプラノ) KANAJI Ami

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業後、同大学院音楽研究科修士課程および博士後期課程修了。ファニー・メンデルスゾーンとクララ・シューマンの歌曲作品研究にて博士号を取得。宗教曲やコンサートのソリストとして数々の作品に出演する他、バウハ・コレギウム・ジャパンにて研鑽を積む。その他、東京・春・音楽祭の子どものためのオペラ、日生劇場ファミリーフェスティバルに出演。また、地元の声楽家たちとオペラ団体「丹沢歌劇団」を立ち上げ地域のオペラの普及を目指すなど幅広い活動を行っている。現在、東京藝術大学教育研究助手、東洋大学講師。



川添 文(ピアノ) KAWAZOE Aya

東京藝術大学を同声会賞、調律師新人協会賞を受賞して卒業。同大学院修士課程を、芸大アカンサス賞、芸大クラヴィア賞を受賞して卒業。Hastings国際コンクールセミファイナリスト(イギリス)Brescia国際コンクールファイナリスト(イタリア)プロコフィエフ作曲ピアノ協奏曲第2番を藝大フィルと共演。ピアノソロだけでなく、伴奏ピアニストとしても幅広く活動中。後進の指導にも力を注いでいる。



クララ・シューマン



ファニー・メンデルスゾーン

2023年11月18日(土)

開演:14:00

小田原三の丸ホール小ホール

Rzp LLC主催 次回演奏会

2024.5.19(日)

石田泰尚 ヴァイオリン・リサイタル

小田原三の丸ホール大ホール(1階席のみ)